
追憶

焰稀

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

追憶

【著者名】

Z5635C

【作者名】

焰稀

【あらすじ】

名前がない海賊船に乗った様々な国の青少年達のファンタジー？的なお話の第一話です

航海一四日

「なあアンタ海賊なんだろ?」

ソイツは皿を丸くした。

「俺を連れてつてくれ」

あれから五年

「ウイル! ウィリアム!! 何処だ!? さつさと掃除やれ!!!」

「アルバ五月蠅いでえ。 ウィルなら甲板で寝とるさかい…」

大海を泳ぐ大きな船。 名前のない海賊船。

船長のアルバ・ゼアノートは若いなりにも他の海賊を纏めていた。
「ユウもさつきつから何してんのかわつかんねえけど… 船の大掃除
!! 手伝え!!!!」

大海を泳いでいるように見えたそれは陸の上でボロボロで横たわっていた。

「せやかて… 船の大掃除くらい俺様の手に掛かればすぐ終わるわ…
せやから黙つといてくれへんかなあ?」

黒い笑顔が輝いた。美しい金髪とは裏腹に黒く微笑む彼は朝霞由宇
という。唯一の日本人で、海で遭難していたところを拾つてもらつ
た。

「アルバさん…そろそろ喉枯れますよ?」

「あら~ウイリアムく~ん…一体誰のせいでこんなに叫んでると思
つてんだこの糞餓鬼い!!~」

「滑舌いーね」

「じゃかあしづ……」

アルバの顔を掠るように何かが通り過ぎ、後ろの壁に刺さる音がし
た。

「アルバが1番五月蠅いから……静かに掃除しないと御飯無しだよ
?」

壁を見ると、そこには銀色に光つたフォークが刺さっていた。
アルバの顔が一瞬で青くなつた。

「ちょ…朴俞ちゃん…?」

朴俞と呼ばれた黒髪を二つのみつあみに縛つた女の子は、名を李り
朴俞と言つた。

この船の唯一の女子であり、最年少でもある。

左手にはビーフシチューの付いたおたまを持つていて、いかにも料
理してましたという雰囲気を漂わせていた。

「とにかくアルバは黙つて掃除。由宇さんもウイルもアルバを構う
くらいだつたらアタシを手伝つて」

この船の裏の船長は彼女なのかもしれない。

最年少なのに誰も反論出来ないのは、彼らの命が彼女にかかりてい
るからなのだ。

彼女を怒らせたり、増してや船から降ろす等したら、食事を作つて
くれる人がいなくなつてしまつのだ。「掃除しようかなあ…」

アルバは目を泳がして言つ。すると朴俞の視線はウイリアムへと移
つた。

「何したらいいわけ?」

頭を搔きながら仕方なさそうに田を細める。

「お前の大好きな甲板でも直してくれ」

「釘とかなくなったら俺んとこ来いや？」

そんな光景を見て朴兪は満足そうに笑った。
船の修理が終わり、食事を終えた後、三人がお腹を壊したことは朴
兪は全く知らなかつた。

航海一冊目（後書き）

初の自作小説でじつやつて書いたら良さかよくわからなかつたんで
すが…頑張りました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5635c/>

追憶

2010年10月28日07時43分発行